

2021年4月22日

2020年度「多摩地域市民活動公募助成」助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人サイコロネット

代表者・役職名 氏名 理事長 佐々木均

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

無料メールカウンセリングによる心の悩みを抱える人の援助

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

カウンセリングや臨床心理を学んでも、その成果を活かしたり、実力を向上させる場がほとんどないため、学校に通う仲間達が話し合い、自分たちで勉強を続けながら、活躍できる場作りから始めました。電子メールの普及と共にメール相談が急速に増え、その実績を踏まえて2008年にNPO法人となり、相談活動と共にカウンセリングセミナーなどの普及活動をおなっています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

年間2万もの自殺者が続く中で、自殺を考える人や自殺に至らないまでも深い悩みや問題を抱える人は膨大な数に上ります。カウンセリングによる援助はこれらの人を救う最も効果的な方法だと考えますが、カウンセリングを受けたても受けることができずにいる人たちが多く存在しています。また一方ではカウンセリングを勉強してその成果を活かしたいのに活かせていない人も多数存在しています。その両者を結び付け、カウンセリングを通して円滑な人間関係、豊かな社会を目指します。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

年間300件程度の無料メール相談を受け付け、カウンセリングマインドによって回答します。またメールカウンセラーの養成をおこないます。具体的には、西東京市の心の相談室を事務所として整備し、ここで回答を作成、また職員同士での検討をおこないます。これによって、現状では飽和状態の受け皿を拡大します。また、現在おこなっている学習会、メールカウンセリング講座をZoomによるリモート学習会に変更し、無料で実施することにしました。多くの市民に参加をうながし、カウンセリングの学習の機会を設けるとともに、カウンセラーの質の向上に努めます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの「効果」 300文字程度まで

年間304件の無料メール相談を受け付け、回答をおこないました。

カウンセリング学習会は、10回述べ参加者54名、7月から新規に開設したメールカウンセリング講座は9回述べ参加者46名でした。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

相談受付件数は飽和状態になっており、受付件数を伸ばすためにはメールカウンセラーの養成が急務となっていますが、回答担当者になるための研修には時間と費用がかかるため、これをどう乗り越えるのかが課題です。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり

